

### 1. 事業の概要

地球温暖化による気候変動や急激な人口増加とあいまって、水不足、水質汚濁など世界の水環境はますます深刻な状況にある。一方、我が国の食料は、約60%を海外から輸入している。それらの食料生産には多くの「水」が使われており、我が国は、世界の水を大量に使用することで世界の水環境に多大な影響を及ぼしているといえる。しかしながら、その影響に関する定量的な評価は行われていない。

そこで、製品の生産過程等における水環境への影響を、バーチャルウォーター（仮想水：水資源の使用量）等の概念を基に、水質と水量を指標としたフットプリント（水資源に対する足跡の程度）として明らかにする。生産過程における水の消費量や汚染度などの水環境への負荷を調査し、定量化の手法を検討するとともに、定量化された指標について、表示方法や普及方策の検討を行う。フットプリントとして可視化することによって、日常生活と世界の水環境の関連づけを行い、世界の水問題に関する国民の認識を深めることによって、水環境への負荷の少ない生産活動、消費活動を促すことができるとともに、我が国が世界の水環境保全に関わる必要性も明らかになる。また、我が国の優れた水処理技術に関して、国際的な競争力の向上が図られる。

なお、2009年6月に国際標準化機構（ISO）において、製品や組織が使用したライフサイクル全体の「水量」を表す「ウォーターフットプリント」の国際規格化を進めることが決定されている。水処理及び水の有効利用の先進国である日本としては、「水量」のみならず「水質」の評価を含んだフットプリントの概念を確立し、我が国に有益な国際規格化の議論を先導していく必要がある。

### 2. 事業計画

調査項目	H22	H23	H24
生産過程等における水環境データ収集			
フットプリント算定手法の検討			
算定及び表示のモデル実施			
モデルの事業評価及び普及施策の検討			

### 3. 施策の効果

- ・ 国際的な関係性を含んだ水環境保全に関する国民の意識向上を図る。
- ・ 水環境への負荷のより少ない生産活動・消費活動を誘導する。
- ・ 我が国として、国際的水環境保全に取り組む必要性が明らかになる。
- ・ 我が国の優れた水処理技術の国際競争力が向上する。

# 水環境保全におけるフットプリント導入推進費

## 課題1

世界では、水質汚濁や水不足など水環境問題がますます深刻化。

## 課題2

日本は、輸入食料を通して、海外の水を多く使用しており、水質汚濁や水不足に大きな影響。

## 課題3

世界的な視点から国民の水環境保全に関する意識が低い。

国際規格化(ISO化)に向けた動向  
日本に有益な規格化を推進することが不可欠

## 目に見える水環境情報(水環境フットプリント)の導入

食品などがライフサイクル全般において水環境(水質と水量)に与える影響を数値として可視化

- ・食品の生産などの行程における水の使用量や汚染度など**必要な水環境情報の収集**
- ・水環境情報から水環境フットプリントを**算定する手法及び表示手法の検討**

### モデル実施

フットプリント算定手法及び表示手法の検討結果を踏まえ、いくつかの生産品を対象に水環境フットプリントを試行的に導入

### 事業評価

モデル事業について、機能や効果を評価検証

- ・水環境フットプリントの**実用化及び普及方策の検討**

### 施策検討

評価を踏まえて今後の水環境保全型社会に向けた水環境フットプリントの**施策展開を検討**



カーボン・フットプリントの事例  
(カーボンフットプリント制度の実用化・普及推進研究会資料より)

- ・国際関係を含む水環境保全について、国民意識の向上、国際協力の必要性の明確化
- ・水環境への負荷の少ない生産活動・消費活動誘導
- ・我が国の優れた水処理技術の国際競争力の向上